



14. プログラム担当者の構成 計 65 名					
外国人の人数	6 人	[ 9.2 %]	女性の人数	18 人	[ 27.7 %]
プログラム実施大学に属する者の割合	[ 69.2 %]				
プログラム実施大学に属する者	45 人		プログラム実施大学以外に属する者	20 人	
そのうち、他大学等を経験したことのある者	33 人		そのうち、大学等以外に属する者	9 人	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成31年度における役割)
(プログラム責任者) 大久保 達也	オキホ タツヤ		大学院工学系研究科・研究科長／総括プロジェクト機構プラチナ社会総括寄附講座・教授(兼務)	プラチナ社会、化学工学、ナノ材料工学博士	事業統括、生活サポートシステム分野担当
(プログラムコーディネーター) 原田 昇 (H31.4.1プログラム担当者から変更)	ハラタ ノボル		大学院工学系研究科都市工学専攻・教授／高齢社会総合研究機構・機構長	都市交通計画、交通まちづくり工学博士	プログラムの企画推進調整、運営委員会委員長、居住環境分野担当
秋山 弘子	アキヤマ ヒロコ		高齢社会総合研究機構・特任研究員／東京大学・名誉教授	老年学 Ph. D.	社会システム分野担当、カリキュラム編成担当、国際連携推進担当
辻 哲夫	ツジ テオ		高齢社会総合研究機構・特任教授	在宅医療、ケア政策、社会保障政策 法学士	ケアシステム分野担当、カリキュラム編成担当、産官学民連携推進担当
大方 潤一郎 (H31.4.1プログラムコーディネーターから変更)	オホカタ ジュンイチロウ		高齢社会総合研究機構・特任教授	都市工学、まちづくり工学博士	プログラムの企画推進調整、居住環境分野担当
田中 敏明	タナカ トシアキ		高齢社会総合研究機構・特任教授	福祉工学、理学療法、人間工学、病態運動学 博士(工学)	生活サポートシステム分野担当
飯島 勝矢	イジマ カツヤ		高齢社会総合研究機構・教授／副機構長	老年医学、在宅医療、虚弱予防、医学教育 医学博士	ケアシステム分野担当、カリキュラム編成担当
白波瀬 佐和子	シラハセ サワコ		大学院人文社会科学系研究科社会文化研究専攻・教授	社会学 博士号(D. Phil)	社会システム分野担当
牧野 篤	マキノ アツシ		大学院教育学研究科総合教育科学専攻・教授／高齢社会総合研究機構・副機構長	社会教育学、生涯学習論 博士(教育学)	社会システム分野担当、カリキュラム編成担当
東郷 史治	トウゴウ シメツル		大学院教育学研究科総合教育科学専攻・准教授	教育生理学 博士(教育学)	ケアシステム分野担当、プログラム評価担当
北村 友人	キタムラ ユウト		大学院教育学研究科学校教育高度化専攻・准教授	教育政策、国際教育開発論 Ph. D.	社会システム分野担当、国際連携推進担当
加藤 淳子	カトウ ジュンコ		大学院法学政治学研究科総合法政専攻・教授	政治学 政治学博士	社会システム分野担当、国際連携推進担当
横山 ゆりか (H31.4.1追加)	ヨコヤマ ユリカ		大学院総合文化研究科広域科学専攻・教授	環境心理学、環境行動学、建築計画学、都市計画学 博士(工学)	社会システム分野担当、フィールド演習企画担当
光石 衛	ミツイシ マモル		大学院工学系研究科機械工学専攻・教授、大学執行役・副学長	機械工学、ロボティクス医療システム 工学博士	生活サポートシステム分野担当
羽藤 英二	ハフウ エイジ		大学院工学系研究科社会基盤学専攻・教授	都市計画・交通計画 博士(工学)	居住環境分野担当

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成31年度における役割)
大月 敏雄	オツキ トシオ		大学院工学系研究科建築学専攻・教授	建築計画、住 宅計画 博士(工学)	居住環境分野担当、カリキュラム編成担 当
中尾 政之	ナカオ マサキ		大学院工学系研究科機械工学専攻・教授	生産技術、ナ ノ転写、失敗 学、創造設計 博士(工学)	生活サポートシステム分野担当、産官学 民連携推進担当
浅間 一	アサマ ハジメ		大学院工学系研究科精密工学専攻・教授	サービスロボ テックス、身 体性システム 科学、自律分 散システム 工学博士	生活サポートシステム分野担当
檜山 敦	ヒヤマ アツシ		先端科学技術研究センター・講師	複合現実感、 ヒューマンイ ンターフェイ ス、ジェロン テクノロジー 博士(工学)	生活サポートシステム担当
安永 円理子	ヤスナガ イリコ		大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機 構・准教授(同研究科生物・環境工学専攻兼担 ノ生産・環境生物学専攻兼担)	ポストハーベ スト工学 博士(農学)	食分野担当
阿部 啓子	アベ ケイコ		大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻・ 特任教授	食品科学、味 覚科学、遺伝 子科学 農学博士	食分野担当、産官学民連携推進担当
佐藤 隆一郎	サトウ リウイチロウ		大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻・ 教授	食品生化学 農学博士	食分野担当、プログラム自己評価・外部 評価担当
潮 秀樹	ウシオ ヒデキ		大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻・ 教授	水産化学・食 品科学 博士(農学)	食分野担当
中嶋 康博	ナカシマ ヤスヒロ		大学院農学生命科学研究科農業・資源経済学専 攻・教授	農業経済学、 フードシステ ム論 農学博士	食分野担当
八木 洋憲 (H30.4.1追加)	ヤギ ヒロノリ		大学院農学生命科学研究科農業・資源経済学専 攻・准教授	農業経営学、 農村計画学/ 博士(農学)	食分野担当
関崎 勉	セキサキ ツトム		大学院農学生命科学研究科食の安全研究セン ター長・教授(同研究科応用動物科学専攻兼 担、獣医学専攻兼担)	獣医細菌学、 食品病原微生 物学 獣医学博士	食分野担当
橋本 英樹	ハシモト ヒデキ		大学院医学系研究科公共健康医学・教授	医療経済学、 社会学 博士(医学)	ケアシステム分野担当、社会システム分 野担当、フィールド演習企画担当
秋下 雅弘	アキタ マサヒロ		大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学専 攻・教授ノ高齢社会総合研究機構・教授	老年医学 博士(医学)	ケアシステム分野担当、カリキュラム編 成担当
小川 純人	オガワ スミト		大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学専 攻・准教授	老年医学 博士(医学)	ケアシステム分野担当
久米 春喜 (H30.4.1追加)	クメ ハルキ		大学院医学系研究科外科学専攻・教授	泌尿器外科学 博士(医学)	ケアシステム分野担当
芳賀 信彦	ハガノ ノブヒコ		大学院医学系研究科外科学専攻・教授	リハビリテー ション医学 博士(医学)	ケアシステム分野担当
神馬 征峰	ジンバ マサミネ		大学院医学系研究科国際保健学専攻・教授	国際保健学、 ヘルスプロ モーション/ 医学博士	ケアシステム分野担当
山本 則子	ヤマモト ノリコ		大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻・教 授	高齢者在宅長 期ケア看護学 ノPh.D. (nursing)	ケアシステム分野担当

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成31年度における役割)
森 武俊	モリ タケシ		大学院医学系研究科ライフサポート技術開発学 (モルテン) 寄附講座・特任教授	センサ医療情 報工学、人間 機械系、看護 工学、ロボ ティクス 博士(工学)	ケアシステム分野担当、生活サポートシ ステム分野担当
堀 洋一	ホリ ヨウイチ		大学院新領域創成科学研究科先端エネルギー工 学専攻・教授	電気工学、制 御工学 工学博士	生活サポートシステム分野担当
内丸 薫	ウチマル カオル		大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生 命専攻・教授	血液内科学 博士(医学)	ケアシステム分野担当
四柳 宏	ヨツヤナギ ヒロシ		大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生 命専攻・教授	感染症学 博士(医学)	ケアシステム分野担当、フィールド演習 企画運営担当
鎌田 実	カマタ ミル		大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻・ 教授	生活支援工学 工学博士	プログラムコーディネーター補佐、生活 サポートシステム分野担当、産官学民連 携推進担当
飛原 英治	ヒハラ エイジ		大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻・ 教授	熱工学、冷凍 空調工学 工学博士	生活サポートシステム分野担当
岡部 明子	オカベ アキコ		大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専 攻・教授	建築デザイ ン、都市政策 環境学博士	居住環境分野担当
本田 利器 (H31.4.1追加)	ホンダ リキ		大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻・ 教授	防災、地震工 学、インフラ 維持管理 博士(工学)	社会システム分野担当
鳴海 拓志	ナルミ タクジ		大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専 攻・講師	バーチャルリ アリティ、人 間拡張工学 博士(工学)	生活サポートシステム分野担当
菅原 育子	スガワラ イコ		高齢社会総合研究機構・特任講師	社会心理学、 社会老年学 博士(社会心 理学)	社会システム分野担当
村山 洋史	ムラヤマ ヒロシ		高齢社会総合研究機構・特任講師	社会疫学、公 衆衛生学、老 年学 博士(保健 学)	ケアシステム分野担当
後藤 純	ゴトウ ジュン		高齢社会総合研究機構・特任講師	都市計画、ま ちづくり、地 域包括ケアシ ステム、総合 老年学 工学博士	居住環境分野担当
Toni Claudette Antonucci	トニ クロデット アントヌッチ		ミシガン大学・副学長 (Associate Vice President for Research, Social Sciences and the Humanities)	ジェロントロ ジー Ph. D.	国際連携アドバイザー
David English	デービッド イングリッシュ		ミズーリ大学法科大学院・教授	高齢者法 Ph. D.	国際連携アドバイザー
Sarah Harper	サラ ハーパー		Director, Oxford Institute of Population Ageing / Professor of Gerontology and Senior Research Fellow, Nuffield College, Oxford University	ソーシャル ジェロントロ ジー Ph. D.	国際連携推進担当
Gyounghae Han	キョンヒョハン		Professor, Division of Consumer Studies and Child and Family Studies, College of Human Ecology, Seoul National University	Family Study Ph. D.	国際連携推進担当
Angelique Chan	アングエリック チャン		Associate Professor, Department of Sociology, National University of Singapore and Duke-NUS Graduate Medical School	社会学 Ph. D.	国際連携推進担当
John Creighton Campbell	ジョン クレイトン キャンベル		ミシガン大学・名誉教授/高齢社会総合研究機 構・客員研究員	Gerontology Ph. D.	国際連携推進アドバイザー

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成31年度における役割)
大内 尉義	オウチ ヤスヨシ		国家公務員共済組合連合会の門病院・院長／ 東京大学・名誉教授	老年医学、老 年学 医学博士	ケアシステム分野担当、産官学民連携ア ドバイザー
永田 久美子	ナガタ クミコ		社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修セン ター・研究部部长	認知症ケア、 当事者ネット ワーク、地域 生活支援、地 域支援ネット ワーク 看護学修士	ケアシステム分野担当、産官学民連携ア ドバイザー
太田 秀樹	オウダ ヒロキ		医療法人アスミス・理事長	高齢者・障が い者医療 医学博士	ケアシステム分野担当、産官学民連携ア ドバイザー
秋山 正子	アキヤマ マサコ		(株) ケアーズ・代表取締役、白十字訪問看護 ステーション・統括所長、NPOマギーズ東京・共 同代表理事	地域看護、在 宅医療連携、 エンド・オ ブ・ライフケ ア 衛生看護学 士	ケアシステム分野担当、産官学民連携ア ドバイザー
野呂 順一	ノロ ジュンイチ		(株) ニッセイ基礎研究所 代表取締役会長	保険数理、年 金数理、経済 統計 学士(理学)	産官学民連携アドバイザー
有吉 善則 (H30.4.1追加)	アリヨシ ヨシノリ		大和ハウス工業株式会社取締役常務執行役員、 総合研究所所長、住宅系商品開発担当、環境副 担当	住宅計画、ス マートハウ ス・スマート シティ 学士(工学)	産官学民連携アドバイザー
滝山 真也	タキヤマ シンヤ		株式会社ベネッセホールディングス取締役兼上 席執行役員/株式会社ベネッセスタイルケア代表 取締役社長	介護事業等の グループ経営 修士(政策・ メディア)	産官学民連携アドバイザー
関根 千佳	セキネ チカ		株式会社ユーディット・会長兼シニアフェロー/ 放送大学・客員教授/同志社大学・客員教授	ユニバーサル デザイン、老 年学、ITとUD による地域活 性化 法学士	産官学民連携アドバイザー
大熊 由紀子	オウクマ ユキコ		国際医療福祉大学大学院・教授	医療福祉 ジャーナリズ ム 教養学士	産官学民連携アドバイザー
南 砂	ミナミ マサコ		読売新聞東京本社・常務取締役調査研究本部長	医療・医学、 科学技術政 策、社会保障 政策および社 会一般、メ ディア論 医学士	ケアシステム分野担当、産官学民連携ア ドバイザー
河出 卓郎	カワテ タカオ		日本新聞博物館・新聞製作マネージャー	社会保障論 文学士	産官学民連携アドバイザー
宮島 俊彦	ミヤジマ トシヒコ		三井住友海上火災保険株式会社・顧問/岡山大 学・客員教授/日本介護経営学会・理事/東京 女子医科大学・監事/高齢社会総合研究機構・ 客員研究員	高齢者ケアシ ステム 教養学士	産官学民連携アドバイザー
樋口 範雄	ヒグチ ノリオ		武蔵野大学法学部・特任教授 /東京大学・名誉 教授	英米法、医事 法、信託法、 高齢者法 法学士	社会システム分野担当、国際連携推進担 当
武川 正吾	タケカワ ショウゴ		明治学院大学社会学部・教授 (H31.4.1所属変更)	社会政策 社会学修士	社会システム分野担当

## 16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数

本プログラムの過去のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成31年度は提出日現在))

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (2019) *(今後の募集予定: 有)	
プログラム募集定員数	-	35	35	35	35	35	30	
① 応募 学生 数	-	38	34	30	29	22	22	
	うち留学生数	-	4	5	9	11	11	8
	うち自大学出身者数	- (-)	18 (0)	16 (0)	8 (0)	9 (1)	3 (1)	2 (0)
	うち他大学出身者数	- (-)	20 (4)	18 (5)	22 (9)	20 (10)	19 (10)	20 (8)
	うち社会人学生数	- (-)	10 (0)	8 (2)	12 (4)	9 (4)	9 (7)	9 (3)
	うち女性数	- (-)	19 (3)	13 (2)	13 (5)	12 (4)	9 (3)	11 (3)
② 合格 者数	-	36	32	27	16	20	16	
	うち留学生数	-	4	4	8	3	9	4
	うち自大学出身者数	- (-)	17 (0)	15 (0)	8 (0)	7 (0)	3 (1)	2 (0)
	うち他大学出身者数	- (-)	19 (4)	17 (4)	19 (8)	9 (3)	17 (8)	14 (4)
	うち社会人学生数	- (-)	10 (0)	8 (1)	11 (4)	4 (1)	9 (7)	8 (2)
	うち女性数	- (-)	19 (3)	12 (1)	10 (4)	8 (2)	9 (3)	10 (2)
③ ②の うち 履修 生数	-	27	28	26	15	19	16	
	うち留学生数	-	4	4	7	3	9	4
	うち自大学出身者数	- (-)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	6 (0)	3 (1)	2 (0)
	うち他大学出身者数	- (-)	18 (4)	15 (4)	18 (7)	9 (3)	16 (8)	14 (4)
	うち社会人学生数	- (-)	10 (0)	8 (1)	11 (4)	4 (1)	8 (7)	8 (2)
	うち女性数	- (-)	16 (3)	12 (1)	9 (3)	7 (2)	8 (3)	10 (2)
プログラム合格倍率 (応募学生数/合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	-	1.06倍	1.06倍	1.11倍	1.81倍	1.10倍	1.38倍	
充足率 (合格者数/募集定員)	-	103%	91%	77%	46%	57%	53%	

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の( )に内数を記入してください。

※平成31年度\*(今後の募集予定:有・無)については、平成31年度内に履修を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。

また、「有」の場合は、当該予定分については表中には含めず、備考欄へ募集時期及び募集予定人数を記入してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。



17. プログラムの履修生数・修了(予定)者数  
 ②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

[公表(備考欄を除く)]  
 (各年度3月31日現在(ただし平成31年度(2019年度)は提出日現在))

プログラムの履修生数等	履修生数 (選抜年度内辞退は除く。)					平成25年度 (H26.3.31 - H27.3.30)		平成26年度 (H27.3.31 - H28.3.30)		平成27年度 (H28.3.31 - H29.3.30)		平成28年度 (H29.3.31 - H30.3.30)		平成29年度 (H30.3.31 - H31.3.30)		平成30年度 (H31.3.31 - 提出日)		平成31年度 (2019年度) (提出日(2019.5))		H32.3.31 (2020) (見込)		(見込含) 修了計	(見込含) 辞退計	
	D1	D2	D3	D4	計	修了	辞退	修了	辞退	修了	辞退	修了	辞退											
平成25年度 選抜	うち留學生数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	うち自大学出身者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	うち他大学出身者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	うち社会人学生数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	うち女性数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成26年度 選抜	うち留學生数	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち社会人学生数	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	うち女性数	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
平成27年度 選抜	うち留學生数	4	0	0	0	4	0	0	0	4	0	1	0	3	0	0	3	0	1	0	0	0	0	2
	うち自大学出身者数	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	うち他大学出身者数	3	0	0	0	3	0	0	0	3	0	1	0	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1
	うち社会人学生数	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	うち女性数	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
平成28年度 選抜	うち留學生数	3	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	うち自大学出身者数	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち他大学出身者数	3	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	うち社会人学生数	3	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	うち女性数	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
平成29年度 選抜	うち留學生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成30年度 選抜	うち留學生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成31年度 選抜	うち留學生数	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち自大学出身者数	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち社会人学生数	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち女性数	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	うち留學生数	9	0	0	0	9	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
	うち自大学出身者数	3	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	うち他大学出身者数	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	うち社会人学生数	8	0	0	0	8	0	0	0	3	1	0	0	4	0	1	2	1	0	0	0	0	0	3
	うち女性数	7	0	0	0	7	0	0	0	2	1	0	0	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3
修了者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
うち就職者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
辞退者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
うち就職に伴う辞退者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
プログラム履修生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数」と整合性を取ってください。

※標準修業年限を超えて在学する者は、「D4」欄に計上してください。

※満期退学者は修了者には含めず、退学した時期の「辞退」欄に含めてください。満期退学者のうち退学後に学位取得した者(プログラムが修了者と認定する場合に限る。)については学位取得した時期の「修了」欄に記入し、該当者の経緯について備考欄に記載するとともに、右端の「修了計」欄及び「辞退計」欄は二重計上とならないよう「辞退計」から該当数を差し引いてください。

※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む。)のみをカウントしてください。また、満期退学後就職した後に学位を取得した者はカウントしてください。なお、社会人学生の現職継続は含めなくてください。

※辞退者(Q.E.)によるものも含む)や満期退学者がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【背景】わが国では、団塊世代の高齢化と出生率の低下により、2030年には65歳以上の高齢者が人口の約1/3を占め、75歳以上の「後期高齢者」も倍増して人口の約1/5を占める**超高齢社会**が到来する。また、韓国、シンガポールも、日本にやや遅れて2040年には高齢者人口が1/3を超え、中国でも2060年には高齢者人口が約1/3に達することが予測されている。

【課題】こうした急激な人口構成の変化に対応し、医療、介護、社会保障、居住環境、社会的インフラ、就業形態をはじめとした**社会システムを組み替える必要性**が目前に迫っている。この社会全体の変化を見通し、超高齢社会にむけて社会システムをリデザインする取組みを直ちに開始し、若い人、現役世代、高齢者の誰もが、人間としての尊厳と生きる喜びを享受しながら快活に生きて行ける、活力ある超高齢社会の実現に向けて挑戦していかなければならない。この課題に世界のトップランナーとして直面しているわれわれは、**高齢者の健康寿命を延ばし、経済活動・地域活動への参加を促す**ことによって**高齢者も社会の支え手とする社会システム**(および、それを支える居住環境システム)、活動レベルが低下して介助が必要になった後も、施設収容により対応するのではなく、住み慣れた**地域社会**の中で、できるだけ自立的に活力を維持しながら暮らせる**社会システム**(と居住環境システム)を実現するなど、**世界に先駆けてその解決策の先進的モデルを生み出す**ことが求められている。

【概要】本プログラムは、人生90年時代において、高齢者が活力を持って地域社会の中で生活できる期間をより長く、要介護や施設収容の期間を最小化することを通じて、高齢者のQOLを高めると同時に、家族と社会の負担を軽減し、高齢者と社会の活力を維持向上させることを目標に、**世界に先行するジェロントロジー教育研究の拠点である東京大学・高齢社会総合研究機構**を軸に、東京大学の有する世界トップクラスの大学院研究科である、人文社会科学、教育学、法学、総合文化学、工学、農学、医学、新領域創成科学、情報理工学の**9研究科30専攻等の総力を結集し**、修士博士一貫の博士課程による教育を通じて**活力ある超高齢社会を共創するグローバルリーダーの養成**に取り組むものである。

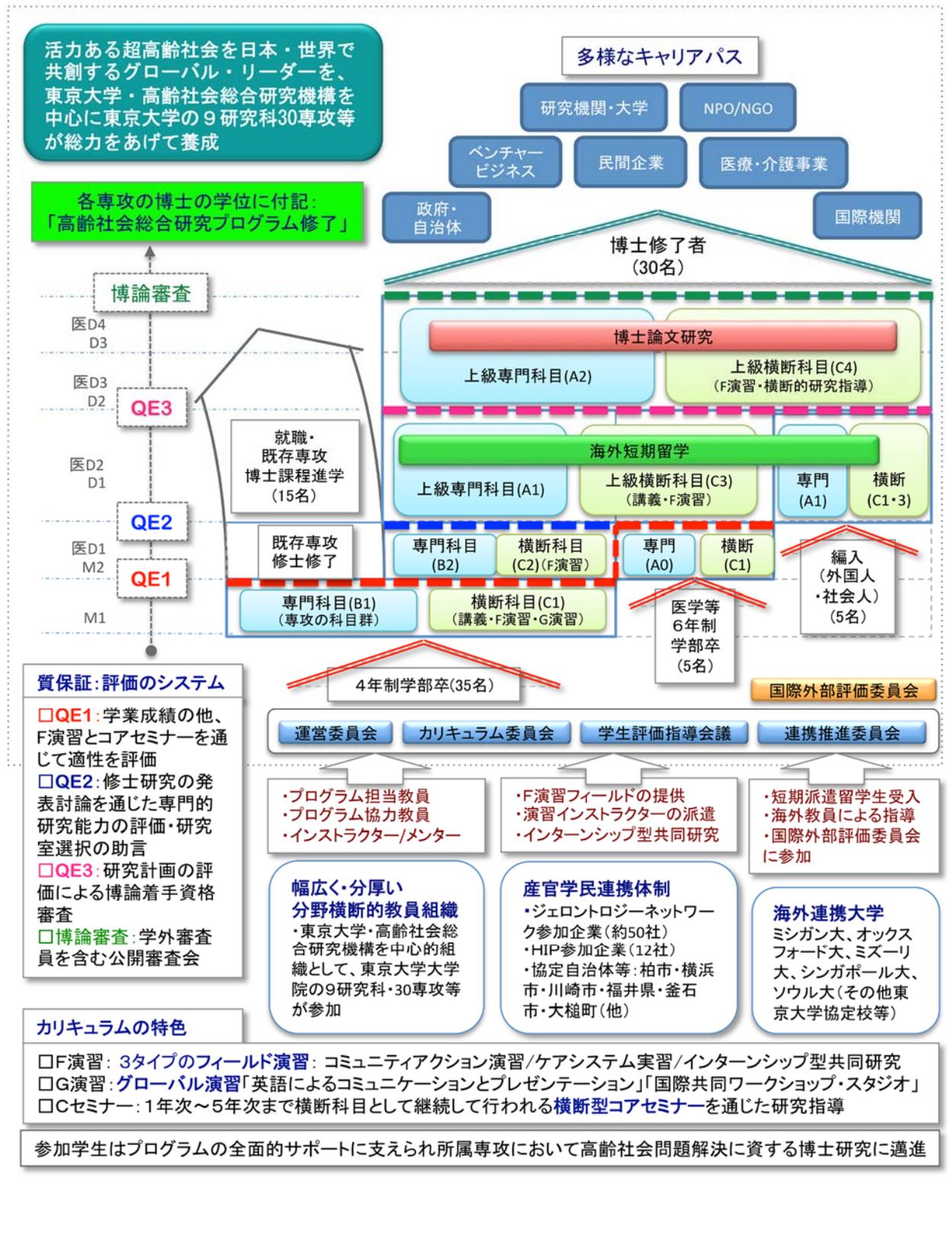
【特色】本プログラムでは、多様な関係分野の教員や産官学民連携諸機関および海外の大学等の国際連携機関のサポートの下で、選り抜かれた大学院生が①**ジェロントロジー(老年学)**や**高齢社会問題に関する講義**を通じ高齢社会問題に関する多様な分野に関する**俯瞰的総合的な知識**を獲得し、②多様な他分野の専門家とチームを組んで課題解決に取り組む**フィールド・アクション・スタディ演習**や国際的な**コミュニケーション能力と多文化・多分野のチームワーク**等を学ぶ**グローバル演習**を履修することを通じ、**グローバルなチームワーク力とリーダーシップ**および現実社会における**課題解決能力**を養い、③所属専攻において培った**深い専門的研究能力**を軸にしながら、高齢社会の様々な問題の解決に資する**独創的で質の高い博士の学位研究**を成し遂げることを通じ、**活力ある超高齢社会を共創するための能力**、すなわち、①**専門分野に関する新たな知見を深く掘り下げる専門的学術研究能力**と、②**ジェロントロジーや高齢社会問題に関する幅広い俯瞰力**、③**多分野の専門家チームを率いて問題解決に取り組む突出した課題解決能力**、の3つの能力を兼ね備えた、人材を養成しようとするものである。特に、学生の**グローバル・リーダーシップの養成**については、学生を**短期海外留学に派遣**する他、海外から**長期・短期の留学生を積極的に受け入れ**、各国・各地域の社会文化の多様性を実体験させるとともに、各国の政策担当者と渡りあえるだけの**論理展開力とコミュニケーション能力**を涵養する。

【優位性】東京大学の高齢社会総合研究機構を中軸に、世界トップクラスの9研究科30専攻等、産官学民連携ネットワーク、国際連携ネットワークで構成される体制により、**世界最優位の高齢社会研究拠点**が形成される。また、このプログラムを通じて、①**高齢社会問題に関わる実社会の動向や潜在的ニーズを踏まえた基礎研究**(たとえば高齢者の心と体の問題に関する研究)が**飛躍的に発展**するとともに、②こうした基礎研究によって得られた**新たな知見やエビデンス**を基礎に、**高齢社会の真のニーズ**に応える様々な**素材、技術、手法、システムや制度**が**研究開発**されることが期待される。こうした超高齢社会の真のニーズに応え、政策提言につながるような、**斬新な研究課題**を、高齢者や高齢社会に関する**俯瞰的実態認識**を踏まえ、多分野の専門家との**分野横断的討議**の中から、**学生自身が見出して行けるよう**、幅広い分野のプログラム担当教員やインストラクターが参加して学生の**研究指導とディスカッション**を行う**分野横断的コアセミナー**を教育カリキュラムの中軸に据える。

③また、本プログラムにより産み出された**新たな知見や技術・手法**は日本や世界で**産業のイノベーション**や**新たな産業分野の創出**をもたらすと同時に、④本プログラムにより**育成されたリーダー**は、国内で活躍するだけでなく、**高齢社会問題の世界最先進国である日本において創出された超高齢社会対応の諸施策のモデルや社会システム**を、アジアや世界各国において各国のリーダー達と協働して**当該国に移植・展開する活動**を担う、まさに、**グローバルなリーダーとして世界に貢献**することが期待される。

プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



## プログラムの成果

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成するという観点に照らし、学生や修了者の活躍状況を含め、アピールできる成果について記入してください。)

- ・ **リーダーを養成するための学位プログラム（カリキュラム）と体制（教員組織）の確立：**  
 プログラム固有の俯瞰講義（概論2科目・特論9科目）や産官学民連携地域共創型演習・対人ケア実習、高齢社会の最前線の現場で活躍する先端実践家によるセミナー等のコースワーク、外国人を含む多様な分野の教員・メンター・学外実務家による分野横断的研究指導、国際学会発表を含む多様な海外派遣の支援、公開シンポジウムや国際学生WSへの企画段階からの参画等により、専門的研究力・俯瞰力・共創力・汎用力を備えたグローバルリーダー養成のプログラムを構築したこと。
- ・ **修了者の成長とキャリアパスの構築：**  
 本プログラムの修了生については、多様な分野の学生・教員がチームを組んで取り組む産官学民連携地域共創型演習や学外実務家を交えた分野横断的研究指導、先端実践セミナー等を通じ、異なる専門領域や産業界との交流により視野の広がりや視点の高まりが見られ、修了生の過半数は産業界や国内外の公的機関等に就職したり、起業に取り組んだりするなど、広く活動の場を広げており、博士課程教育リーディングプログラムの目的である「専門分野の枠を超えて全体を俯瞰し社会的課題の解決に導く高度な人材の育成」という観点での人材育成に成功していること。
- ・ **分野融合的な知の形成と国際的発信：**  
 異なる研究科・専攻の学生チームによる融合研究（産官学民連携地域共創型フィールド演習の一環として行う学生グループによる共同研究）の成果が、多くの国際的学術誌や国際学会において発表され、また、国内外において多数の賞を受賞するなど、融合分野である高齢社会総合研究分野の体系化への基礎を築くと同時に、学位論文において、融合領域における視点が加わっており、学生の博士論文においても融合研究において培った力が生きていること。
- ・ **多様な人的ネットワークの形成：**  
 上記に示した学生グループによる共同研究は、異分野専攻の学生チームが（教員やメンターのアドバイスを受けつつ）自分たちで共同研究テーマを立ち上げ、産業界や福祉現場の実践家や地域住民、行政と積極的にコンタクトしながら研究やプロジェクトに取り組むものであり、こうした活動を通じて、学年や分野を超えた学生間のネットワークのみならず、学内外の様々な立場の人々との多様な人的ネットワークが構築されており、また、学生が企画段階から参画して開催した2度の国際学生ワークショップ（IARU:2016、APRU:2017）の運営を通じて、海外の多数の高齢社会問題に関する教育研究拠点の学生・教員との国際的ネットワークが構築されており、また、こうした過程を通じて、共創力の高い、たくましい学生が育っていること。

## プログラムの成果

(大学院改革につながる教育研究組織の再編等の学内外への波及効果や課題の発見について記入してください。)

東京大学では、「東京大学ビジョン 2020」(平成 27 年 10 月策定)を全学で共有し、総長のリーダーシップの下、大学院教育改革を強力に推し進めている。重点施策である「国際卓越大学院(WINGS)」構想では、博士課程教育リーディングプログラムで整備した学位プログラム制度を基軸として、トップクラスの優秀な学生を対象とした修博一貫学位プログラムを全学で展開する。従来の大学院教育の枠を越えた部局間の連携や融合、産業界や海外研究機関等との連携、QE による質保証の仕組み、全学的なプロパティマネジメントを活用した共有スペースの確保、URA の重点配置による支援体制の確立などの博士課程教育リーディングプログラムにおける取組や成果は既に定着しており、WINGS の各教育プログラムにおいて発展的に継承される。

なお、東京大学は、指定国立大学法人構想を契機として「東京大学ビジョン 2020」を拡張し、これを実現する司令塔として、総長を本部長とする「未来社会協創推進本部(FSI: Future Society Initiative)」を設置(平成 29 年 7 月)した。加えて、FSI の下に「国際卓越大学院タスクフォース」(座長: 大学院改革担当理事)を設置し、全学的な観点から大学院教育改革を推進する仕組みを整えた。

他方、補助事業終了後の安定的な学生への経済的支援が課題となる。これについては、大学全体のスケールメリットを活かした財源の多様化、財源構築による基盤財源の充実や、経済的支援の在り方の転換(給付型支援から対価型支援へ)に大学全体として取り組み、支援の充実と恒久化を図る。

なお、本プログラムが開発し、平成 26 年度から開始した過去 5 年間の授業の展開を通じて、大きな成果を上げつつある、**新しい大学院教育のメソッド**としては、以下を挙げることができる。

- ・ 独創性・有用性の高い研究テーマと研究手法の発見を促進する、多様な専門分野の教員・メンターと学外実務家を交えた指導チームによる**分野横断的研究指導体制**
- ・ 実践的課題解決能力と共創力を育てる、**分野横断的**学生チームによる**産学官民連携・地域共創型フィールド演習**、およびその一環として行う**学生グループ共同研究の国際学会等における発表**
- ・ グローバルなリーダーシップと多様な人的ネットワークを育てる、**学生が企画段階から運営に参画する国際学生ワークショップ**の開催(実績としては、IARU:2016、APRU:2017)
- ・ 本プログラムの俯瞰的講義群とコアセミナーの展開を基礎とした**分野融合的な知の体系化と発信**: シリーズ『超高齢社会のデザイン』(全 12 巻) 東京大学出版会の出版(平成 31 年度～)